



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月9日

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 炭井 孝志  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 村田 隆 (TEL) 03-5962-7777  
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	39,651	2.7	1,749	△24.0	1,719	△23.7	878	△30.5
23年3月期第3四半期	38,614	△2.1	2,302	△4.6	2,252	△3.4	1,264	10.3

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 882百万円(△29.0%) 23年3月期第3四半期 1,243百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	61.82	—
23年3月期第3四半期	100.06	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	32,663	13,309	40.7
23年3月期	30,753	12,711	41.3

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 13,309百万円 23年3月期 12,711百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
24年3月期	—	0.00	—		
24年3月期(予想)				15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,400	3.5	2,150	△22.5	1,900	△29.1	900	△31.8	63.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は当第3四半期決算短信 (添付資料) 4 ページ 「2. サマリー情報 (その他) に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

24年3月期3Q	14,211,000株	23年3月期	14,211,000株
24年3月期3Q	91株	23年3月期	91株
24年3月期3Q	14,210,909株	23年3月期3Q	12,641,148株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

#### ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表のレビュー手続は実施中であります。

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、当第3四半期決算短信 (添付資料) 4 ページ 「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
(4) 追加情報 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(4) セグメント情報等 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日）におけるわが国の経済は、東日本大震災からの復旧・復興は当初の予想を上回るペースで夏場までに急回復しましたが、その後は円高が歴史的な高水準で推移していることや、欧州の債務危機の再燃、新興国経済の減速等が輸出の伸び悩み要因となるなど、景気の回復ペースが鈍化しました。今後の見通しにつきましては、本格化する復興需要が支えとなり、景気回復が進むことが予想されておりますが、依然として予断を許さない状況にあります。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、平成22年3月期よりスタートさせました中期経営計画『KENKO Victory ROAD 2011（以下、KVR2011）』が最終年度を迎え、目標の完全達成に向けて推進しております。また当社グループの事業戦略を、「新たな成長を目指して、新しい『ケンコースタイル』を創る」とし、5つの具体的な方向性を掲げております。

- ① サラダから総菜へ、業域を拡大する  
従来の「サラダ」という切り口から、「総菜」に関する事業全体へ業域の拡大を目指す。
- ② マヨネーズ・ドレッシングからソースへ、業域を拡大する  
「マヨネーズ・ドレッシング」という切り口から「ソース」まで枠を拡げ、ソース類製造業のポジションを確立する。
- ③ タマゴ加工品は殻付きタマゴからタマゴ製品まで、事業範囲を拡大する  
殻付きタマゴからタマゴ加工品まで、一貫したシステムを作り、それぞれの段階で、こだわった商品と効率的な生産を目指す。
- ④ 業務用メーカーから市場演出型企業へ存在感をアップする  
従来の縁の下の力持ちという存在から、様々な食スタイル・食シーンを演出できる企業づくりを目指す。まず「サラダカフェ」を活用し、積極的な提案を進める。
- ⑤ 海外事業の拡大  
海外事業のうち中国事業に関しては、マヨネーズ・ドレッシング類を生産する杭州新工場の稼働準備を進めており、東莞のサラダ工場とリンクさせながら、中国市場への浸透を図る。

事業戦略の方向性実現に向けた取り組みの一部としましては、テレビ・雑誌等のマスメディアへ取り上げていただく機会が増加したことに加えて、ラジオCMにも積極的に打って出ることにより、市場演出型企業実現へ向け、ブランドの浸透や企業イメージの向上に取り組んでおります。サラダカフェの店舗展開につきましては、首都圏強化の第一弾として、小田急百貨店新宿店を3月1日にオープンさせることを決定いたしました。また「世界のソース」シリーズの発売を開始するとともに、東京・大阪の総合フェアへ出品し、高い評価をいただきました。

当第3四半期連結累計期間における売上高及び利益面の概況は以下のとおりであります。

## ① 売上高

売上高につきましては、東京本社の「Cooking Labo TOKYO」へお客様を積極的に招聘し、お客様との共同試作を通じての情報交換等を進めたことや販売全部署による数量アップに向けた取り組みが売上増へ寄与いたしました。また外食業界向けをはじめ期間キャンペーンや新メニューへの採用が続き、売上高の増加ペースを更に加速させることができました。その結果、当第3四半期連結累計期間における連結売上高は、前年同四半期に対して増収を達成でき、また期初に策定しました売上高計画に対してもほぼ予定どおり進捗いたしました。

## ② 利益

利益面につきましては、穀物相場をはじめとする原料価格高騰への対策として、全部門において事業計画の見直しや活動経費の徹底的な削減等により吸収を進めてまいりました。また国内の原料事情につきましても、東日本大震災直後は原料価格が高騰しておりましたが、夏場以降は平常時の水準にまで落ち着きを見せたことも利益水準の回復に寄与いたしました。特に鶏卵相場につきましては、年末の最需期においても価格は上昇せず、足元においては昨年を下回る価格となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間における利益の状況は期初に策定しました収益計画を上回って進捗いたしました。

当第3四半期連結累計期間における売上高は39,651百万円（前年同四半期比1,036百万円の増加、2.7%増）、連結営業利益は1,749百万円（前年同四半期比553百万円の減少、24.0%減）、連結経常利益は1,719百万円（前年同四半期比532百万円の減少、23.7%減）、連結四半期純利益は878百万円（前年同四半期比386百万円の減少、30.5%減）となりました。

各報告セグメントの状況は次のとおりであります。

## 調味料・加工食品事業

<調理加工食品>につきましては、従来からの主力商品でありますポテトサラダ、パスタサラダ、ゴボウサラダ、ツナサラダ等に加えて、春雨、パンプキン、豆等の素材を活かした商品や明太子、コーンを使用した商品が好調に推移いたしました。特に製パン・外食・量販店向け等でツナサラダ、ゴボウサラダ等が伸張いたしました。

<マヨネーズ・ドレッシング類>は、量販店向けの1kgや500g形態のマヨネーズが好調を維持し、10kg形態のマヨネーズも引き続き伸張いたしております。また、西日本工場の最新ライン製造のドレッシングも着実に育成が進んでおります。特に外食向けのドレッシング、ソース類が好調に推移したことにより、前年同四半期比での増収に寄与いたしました。

<タマゴ加工品>は、製パン向けのタマゴサラダ、弁当・すし用の厚焼き卵、茹で卵が大手コンビニエンスストアで採用されたことにより大幅な数量増加となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は33,354百万円、セグメント利益は1,503百万円となりました。

## 総菜関連事業等

主要な原料である卵の価格が震災直後に高騰し、また野菜類の価格が台風の影響等により高騰いたしました。生産拠点の統合をはじめとしたコストダウンや経費削減対策の実施をするとともに、収益構造の分析に基づく商品政策を実施してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は5,583百万円、セグメント利益は230百万円となりました。

当連結会計年度も残り3か月となり、引き続き現在の中期経営計画『KVR2011』の目標を完全達成させるとともに、今後の更なる飛躍に向けて、次期を初年度とする新中期経営計画の策定を進めてまいります。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## (総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、32,663百万円（前連結会計年度比1,909百万円の増加、6.2%増）となりました。これは、主に当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日だったことにより受取手形及び売掛金が2,209百万円増加したこと等によるものであります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、19,353百万円（前連結会計年度比1,310百万円の増加、7.3%増）となりました。これは、主に当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日だったことにより支払手形及び買掛金が2,703百万円増加、未払法人税等が326百万円減少及び1年内返済予定の長期借入金が382百万円減少したこと等によるものであります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、13,309百万円（前連結会計年度比598百万円の増加、4.7%増）となりました。

## (自己資本比率)

当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は40.7%（前連結会計年度比0.6ポイント減）となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年5月10日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

## (税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じる方法等により計算しております。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## (4) 追加情報

## (会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,557	5,293
受取手形及び売掛金	8,269	10,479
商品及び製品	1,135	1,088
仕掛品	13	12
原材料及び貯蔵品	720	856
繰延税金資産	328	279
その他	179	326
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	16,203	18,335
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,709	4,551
機械装置及び運搬具(純額)	3,101	2,945
土地	3,879	3,879
その他(純額)	370	299
有形固定資産合計	12,060	11,675
無形固定資産		
無形固定資産合計	266	337
投資その他の資産		
繰延税金資産	256	213
その他	1,996	2,131
貸倒引当金	△29	△31
投資その他の資産合計	2,222	2,314
固定資産合計	14,550	14,327
資産合計	30,753	32,663

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,103	8,806
短期借入金	1,410	1,710
1年内返済予定の長期借入金	1,159	777
未払法人税等	491	164
賞与引当金	381	179
その他の引当金	130	155
その他	3,605	3,537
流動負債合計	13,281	15,330
固定負債		
長期借入金	2,670	2,117
退職給付引当金	439	514
その他の引当金	163	138
その他	1,488	1,252
固定負債合計	4,760	4,023
負債合計	18,042	19,353
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,180	2,180
資本剰余金	2,448	2,448
利益剰余金	8,043	8,638
自己株式	△0	△0
株主資本合計	12,672	13,267
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50	61
繰延ヘッジ損益	△2	△0
為替換算調整勘定	△9	△19
その他の包括利益累計額合計	38	42
純資産合計	12,711	13,309
負債純資産合計	30,753	32,663



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	38,614	39,651
売上原価	27,677	29,292
売上総利益	10,937	10,358
販売費及び一般管理費	8,634	8,609
営業利益	2,302	1,749
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	18	18
その他	53	47
営業外収益合計	74	67
営業外費用		
支払利息	94	73
その他	29	23
営業外費用合計	124	97
経常利益	2,252	1,719
特別利益		
貸倒引当金戻入額	20	—
特別利益合計	20	—
特別損失		
固定資産除却損	8	24
投資有価証券評価損	34	23
減損損失	9	1
その他	11	21
特別損失合計	64	70
税金等調整前四半期純利益	2,207	1,649
法人税、住民税及び事業税	877	695
法人税等調整額	65	75
法人税等合計	943	771
少数株主損益調整前四半期純利益	1,264	878
四半期純利益	1,264	878

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,264	878
その他の包括利益		
持分変動差額	14	—
その他有価証券評価差額金	△40	11
繰延ヘッジ損益	3	1
為替換算調整勘定	7	—
持分法適用会社に対する持分相当額	△5	△9
その他の包括利益合計	△21	3
四半期包括利益	1,243	882
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,243	882
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	31,941	6,011	37,952	661	38,614	—	38,614
セグメント間の内部売上高 又は振替高	361	5,572	5,933	—	5,933	△5,933	—
計	32,302	11,584	43,886	661	44,548	△5,933	38,614
セグメント利益	1,976	278	2,254	4	2,259	△6	2,252

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△6百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客に対する売上高	33,354	5,583	38,938	713	39,651	—	39,651
セグメント間の内部売上高 又は振替高	382	6,371	6,754	—	6,754	△6,754	—
計	33,737	11,954	45,692	713	46,405	△6,754	39,651
セグメント利益	1,503	230	1,734	0	1,734	△15	1,719

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△15百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。